

平成29年度 行政評価 施策カルテ

施策名 1 安全で快適な河川環境の整備

施策主管課 河川課

総合計画記載頁 127ページ

1 施策の位置付け

政策の柱	Ⅲ 市民の快適な暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	14 良好な水と緑の環境を創出する	政策の達成目標 (基本施策目標)	市民が身近に自然と親しめる良好な水と緑の環境が創出され、自然との共生が深まっています。
------	--------------------	----------------	-------------------	---------------------	---

2 施策の取組状況

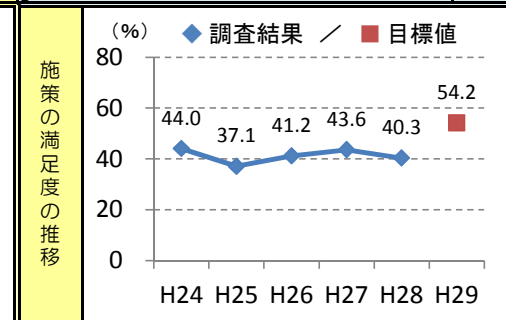
施策目標 環境と調和のとれた安全で快適な河川環境が創出されています。

① 施策指標	指標名(単位)	単年度目標値	H24	H25	H26	H27	H28	H29 (目標年)	評価
			自然生態系などに配慮して整備している河川の整備率	57.8%	59.1%	59.5%	59.8%	60.3%	
現状値	58.0%	実績値	60.4%	61.4%	61.7%	62.1%	62.5%		
目標値(H29)	60.9%	単年度の達成度	104.5%	103.9%	103.7%	103.8%	103.6%		
指標2	現状値	単年度目標値							
	目標値(H29)	単年度の達成度							
	現状値	単年度目標値							
	目標値(H29)	単年度の達成度							

② 市民意識調査結果	指標名(単位)	調査結果	H24 (現状値)	H25	H26	H27	H28	H29	評価
			施策の満足度(%)	44.0%	37.1%	41.2%	43.6%	40.3%	
③ 主要な構成事業の進捗状況 (主要な構成事業の個別の進捗状況は、「3 施策を構成する事業の状況」を参照)	目標値(H29)	54.2%		-6.9pt	4.1pt	2.4pt	-3.3pt		B
	前年度からの増減								
【参考】中核市等との水準比較	指標名(単位)	H24	H25	H26	H27	H28	H29	評価	
	中核市平均								
	実績値								
	中核市での本市の順位								
	中核市平均								
	実績値								
	中核市での本市の順位								

※『①施策指標』の単年度の達成度の計算について

★ 通増型の指標(目標値が基準値より増加することが望ましいもの)	$\frac{\text{実績値}}{\text{目標値}} \times 100 (\%)$
★ 通減型の指標(目標値が基準値より減少することが望ましいもの)	$\frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} \times 100 (\%)$



※評価の考え方

評価項目	A	B	C
① 施策指標	A: 達成度90%超 [33点]	B: 達成度70%~90% [25点]	C: 達成度70%未満 [15点]
② 市民意識調査結果(満足度)	A: 前年度より向上 (+5pt超) [33点]	B: 前年度同水準 (±5pt以内) [25点]	C: 前年度より低下 (-5pt超) [15点]
③ 主要な構成事業の進捗状況	A: 計画以上 (主要な構成事業の2割超が計画以上) [33点]	B: 計画どおり (主要な構成事業の8割以上が計画どおり) [25点]	C: 計画より遅れ (主要な構成事業の2割超が計画より遅れ) [15点]
総合評価	順調: (A評価が2つ以上(C評価がある場合を除く。)) [90点以上]	概ね順調: (主にB評価が2つ以上) [65点以上90点未満]	やや遅れている: (C評価が2つ以上) [65点未満]

取組内容と成果・成果の要因、進捗の状況

施策を取り巻く環境等	<ul style="list-style-type: none"> 近年の局所的な集中豪雨や台風により、いっ水被害のリスクが増大しており、早急な対策が求められている。 治水対策の推進とともに自然環境に配慮した多自然川づくりによる多様な河川環境の創出・保全が求められている。
施策指標	<ul style="list-style-type: none"> いっ水被害の解消・軽減に向け、計画的に河川整備を進めている。 良好な河川環境を形成するための自然生態系などに配慮した河川の整備率について、目標値以上の進捗である。

市民満足度	<ul style="list-style-type: none"> 自然生態系などに配慮した河川の整備率は目標に到達しているものの、未改修・未整備区間においては、局所的豪雨などによりいっ水被害が発生していることから、満足度は目標値に達していない結果になっていると考えられる。 市民満足度調査における個別施策(安全で快適な河川環境の整備)の取組について、平成27年の関東東北豪雨や平成28年の集中豪雨や台風によるいっ水被害の発生から、満足度が減少した結果になったと考えられる。
総合評価	83点 概ね順調

3 施策を構成する事業の状況

※凡例 ○:「総合計画の戦略プロジェクト・主要事業」対象, ★:「③ 主要な構成事業の進捗状況」対象(5事業選択)

No.	事業名	戦略P・主要事業※	事業の目的	事業内容		事業の進捗状況	H28事業費(千円)	開始年度	日本一施策事業	施策目標を達成するための取組方針
				対象者・物(誰・何に)	取組(何を)					
1	河川環境基金事業		・河川愛護精神の普及啓発	・市内全域の市民	・基金を利用した市民参加イベントの実施	計画どおり	400	H3		・川の日クリーン作戦として、ごみ拾いにスポーツの要素を加味した河川愛護イベントを実施する。また、実施にあたっては、市民の活動参加を促進させるため、広報紙やチラシ等によるPRに努める。
2	河川愛護活動事業補助金	★	・河川愛護活動の推進	・宇都宮市河川愛護会に所属する河川愛護グループ	・河川愛護活動への支援 ・会報の発行 ・意見交換会の実施	計画どおり	2,021	S45		・河川愛護グループへの活動支援や意見交換会による情報交換、また、河川PR展等での愛護会活動のPRなどを通じて、新たなグループの設置を促進し河川愛護意識の高揚に努める。
3	都市基盤河川御用川整備事業	★	・御用川のいつ水被害の解消	・流域に居住する市民、地権者	・河川改修の実施	計画どおり	3,700	H3		・台風や集中豪雨により多発するいつ水被害の早期解消のため、国や県の補助金などの財源を確保しつつ、引き続き地権者の理解を得ながら、用地取得に努め、河川整備を推進する。
4	都市基盤河川奈坪川整備事業	○★	・奈坪川のいつ水被害の解消	・流域に居住する市民、地権者	・河川改修の実施、用地取得	計画どおり	656,426	H20		・台風や集中豪雨により多発するいつ水被害の早期解消のため、国や県の補助金などの財源を確保しつつ、地域住民や地権者の理解を得ながら優先的かつ重点的に事業を推進する。 ・本格改修まで時間を要すことから、事業推進と併せて、いつ水被害軽減対策を推進する。
5	準用河川整備事業	★	・準用河川のいつ水被害の解消	・流域に居住する市民、地権者	・河川改修の実施、用地取得	計画どおり	840,658	S50		・台風や集中豪雨によるいつ水被害の早期解消のため、地域住民や地権者の理解を得ながら、国の補助金などの財源を確保しつつ、治水機能の向上を図り、自然環境に配慮した河川整備を計画的に推進する。
6	普通河川整備事業	★	・普通河川のいつ水被害の解消	・流域に居住する市民、地権者	・河川改修の実施	計画どおり	1,571	S47		・台風や集中豪雨によるいつ水被害の早期解消のため、地域住民や地権者の理解を得ながら、限られた予算の中で選択と集中により、河川整備を計画的に推進する。
7	グラウンドワーク活動センターの管理運営		・グラウンドワーク活動センターの維持管理	・市民、事業者	・施設の管理及び施設を利用した自然環境保全事業、自然環境に関する学習活動の企画実施等を行う場を提供	計画どおり	3,934	H17		・身近な地域での環境の改善を図るため、自然環境に関する学習活動の企画や調査、都市住民との交流事業などに取り組むとともに、引き続き活動の場の提供に努めていく。
8										
9										
10										

4 今後の施策の取組方針

今後の方向性	
<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆近年の異常気象により、集中豪雨や台風時にいつ水被害が発生しており、早期の被害解消が求められているため、河川への流入抑制対策として、雨水貯留・浸透施設や浸透性舗装などのハード整備をする関係課と連携する必要がある。 ◆計画的な河川整備を推進するため、国や県の補助金を積極的に活用し財源を確保する必要がある。 ◆河川愛護会メンバーの減少や高齢化などにより、河川愛護活動等の停滞が懸念されることから、市民・行政の協働による新規活動参加者の確保に努める必要がある。 	<p>方向性</p> <p>〈施策全般〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆いつ水被害を解消するために、雨水貯留・浸透施設や浸透性舗装などの河川への流入抑制対策をする関係課と連携し河川整備を推進する。 ◆良好な河川環境を創出するため、自然環境に配慮した河川整備を推進する。 ◆河川の本格改修には時間を要することから、いつ水被害軽減対策を進める。 ◆市民参加による河川愛護活動や河川環境基金を活用したイベント事業などにより、良好な河川環境形成につながる河川愛護意識の高揚を図る。 <p>〈主要事業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆都市基盤河川奈坪川整備事業 豪雨時にいつ水被害が発生することから、解消に向け、国や県の補助金を導入し財源確保に努めるとともに、雨水貯留・浸透施設や浸透性舗装などの雨水の河川流入抑制対策を図り、自然環境に配慮した河川整備を計画的に推進する。 また、本格改修までには時間を要することから、いつ水被害の早期軽減を図るため、調整池整備などの効果的な減災対策を実施する。 <p>〈その他個別事業〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆準用河川等の河川整備及び都市基盤河川御用川整備事業及び普通河川整備事業 豪雨時にいつ水被害が発生しているについては、更なる国や県の補助金を確保するため、関係機関へ働きかけを行うとともに、雨水貯留・浸透施設や浸透性舗装などの雨水の河川流入抑制対策を図りつつ、自然環境に配慮した河川整備を計画的に推進する。 ◆河川愛護活動事業補助金及び河川環境基金事業 愛護活動新規参加者を確保するため、引き続き河川愛護会と連携を図るとともに、河川環境基金を活用したイベント型のクリーン作戦や広報活動などのPRを継続的に行う。